

## 日本国とウズベキスタン共和国との間の戦略的パートナーシップの 更なる深化及び拡大に関する共同声明

シャフカット・ミルジヨーエフ・ウズベキスタン共和国大統領は、2019年12月17日から20日まで、安倍晋三日本国内閣総理大臣の招待により、日本国を公式訪問した。

温かく友好的な雰囲気で行われた会談の中で、安倍総理大臣及びミルジヨーエフ大統領（以下「双方」という。）は、1992年の外交関係樹立以来の二国間協力のたゆみない発展を高く評価するとともに、令和元年という重要な節目の年に行われたミルジヨーエフ大統領の今次訪日を機会として、本件「日本国とウズベキスタン共和国との間の戦略的パートナーシップの更なる深化及び拡大に関する共同声明」及びこれまでの共同声明に基づく両国の友好関係を更に強化するために共に努力することで一致した。

### I 二国間関係

- 1 双方は、政治、貿易・経済、投資及び文化・人文を含む多岐にわたる分野において両国間の対話と交流が活発に行われ、協力が深化していることを歓迎した。
- 2 双方は、ハイレベルの要人往来を含む政治対話が両国関係の強化にとって重要な役割を果たしていることを指摘した。両国関係の諸問題に関する議論を行うとともに、双方が関心を有する国際及び地域の諸問題について意見交換を行うため、両国の外務省間の政務協議を継続していく意図が表明された。この関連で、双方は、今次訪日に際し「2020－2023年における外務省間協力プログラム」が署名されたことを歓迎した。
- 3 双方は、両国国会議員による相互訪問が活発に行われていることを前向きに評価するとともに、日本・ウズベキスタン友好議員連盟及び議会間グループ「日本国国会＝ウズベキスタン共和国オリー・マジリス」が両国関係の拡大及び発展に果たしている意義及び役割を特に強調し、両国議会間交流の更なる発展の重要性を指摘した。
- 4 双方は、両国間の貿易・経済及び投資関係がその潜在性を一層発揮すべきであることを指摘した。双方はまた、日本・ウズベキスタン経済合同会議の際に両国政府の代表の間の会合を開催することにより、経済分野における両国間の関係省庁間の連携を強化することで一致した。日本側は、ウズベキスタンによる経済の自由化及び多角化に向けた改革のための努力を評価する

とともに、ウズベキスタンが投資・ビジネス環境を一層改善していくことの重要性を指摘した。

双方はまた、税関相互支援協定及び新たな租税条約への署名を歓迎した。

- 5 双方は、経済の様々な分野における協力の成功事例の存在を指摘しつつ、電力分野、保健分野、光通信ネットワーク、化学・繊維産業及び果実・野菜栽培の発展、日本の技術による温室の建設、バス・トラック製造、自動車販売、鉱物資源の探査等に関連するプロジェクトの進展を引き続き支援していく意図を表明するとともに、こうしたプロジェクトの実施が日本企業のウズベキスタンにおける活動の更なる拡大の追加的な契機となることへの期待を表明した。

双方は、日本企業が参画するウズベキスタンの優先的投資プロジェクトの実現における、国際協力銀行(JBIC)及び日本貿易保険(NEXI)の重要な役割を指摘した。

- 6 双方は、2019年5月にタシケント市で第3回会合が開催された日・ウズベキスタン官民インフラ会議の成果が、日本が有する最先端の技術の導入によるウズベキスタンのインフラ分野の一層の発展に貢献することへの期待を表明した。双方はまた、同会議における『『都市におけるインフラ』分野における協力及び相互協力の継続に関する日本国国土交通省とウズベキスタン共和国イノベーション発展省との間の協力覚書』の署名を歓迎した。

双方は、「質の高いインフラ投資に関するG20原則」に基づき、開放性、透明性、経済性及び借入国の債務持続可能性といった要素を含む国際スタンダードにのっとり、質の高いインフラ投資の重要性を確認した。

双方は、ウズベキスタン共和国情報技術・通信発展省に起用される日本人専門家の知見も活用しつつ、ウズベキスタンとの情報通信技術の分野における協力を推進していくことの重要性を確認した。

- 7 ウズベキスタン側は、日本の政府開発援助(ODA)の下での長年のウズベキスタンの経済インフラの更新及び整備への支援、市場経済及び企業経営の進展及び産業振興のための人材育成への支援、法の支配の浸透のための法制度構築への支援並びに保健、医療、地域開発等の社会セクターの振興への支援に対し、日本側に感謝の意を表明した。これに関し、ウズベキスタン側は、国の持続可能な開発に資する戦略的に重要なプロジェクトの実現のため、有償及び無償資金協力による今後の継続的な協力を求めた。双方は、国際協力機構(JICA)とウズベキスタン共和国投資・対外貿易省との間で今後の中期的な優先協力分野について議論することを目的とする議事録が署名されたことを歓迎した。

- 8 ウズベキスタン側は、特にガス火力発電所の建設を始めとする同国の電力供給能力の強化と電力セクターの近代化へのこれまでの資金協力と支援に感謝の意を表明し、こうしたODAが引き続き行われることについて期待を表明するとともに、質の高い日本の技術の活用に関心を表明した。

双方は、「ナボイ火力発電所近代化計画(フェーズ2)」における高効率なコンバインドサイクル・ガスタービン第3号機の建設(ナボイ3)及び「電力セクター能力強化計画(フェーズ2)」におけるウズベキスタンの火力発電所の既存のコンバインドサイクル・ガスタービンのメンテナンス及び部品供給のための円借款に関する交換公文及び借款契約への署名を歓迎した。ウズベキスタン側は、ナボイ火力発電所に高効率なコンバインドサイクル・ガスタービンの第4号機の建設(ナボイ4)に対する円借款を通じた更なる協力を日本側が検討していることに対し、感謝の意を表明した。

加えて、双方は、「園芸作物バリューチェーン強化計画」の円借款の交換公文及び借款契約への署名を歓迎した。ウズベキスタン側は、農業及び灌漑の分野における日本の継続的な協力を高く評価した。

- 9 ウズベキスタン側はまた、ウズベキスタン日本人材開発センターの活動、若手行政官等を対象とした人材育成奨学計画の実施並びに日本国財務省財務総合政策研究所及び法務省法務総合研究所による金融・財政及び司法分野における協力の実施を含む、日本の長年にわたる人材育成及び法整備に関する協力を高く評価した。双方は、2019年3月に署名された日本国法務省とウズベキスタン共和国司法省との間の協力覚書の枠組み内において、法務・司法分野における日本との協力が更に強化されることへの期待を表明した。

- 10 双方は、あらゆる分野において両国間での人的交流を拡大させることが、両国民間に長年存在する心のつながりと友情を一層深め、両国間の協力の進展につながるとの認識で一致した。

双方は、両国間の航空便就航地点の拡大、2018年2月にウズベキスタン側によって導入された日本国籍者に対する査証免除措置及び両国政府の協力を得て制作された映画の公開を始めとする各種の取組が、観光客の往来の増加及び人的交流の拡大に貢献していることに対し満足の意を表明した。

双方は、貿易・経済、文化・人的交流、科学・技術及び相互に関心を有するその他の交流の持続可能な発展を促進するための重要な条件となる市民間の交流の拡大に対する期待を表明した。

双方は、「特定技能」を有する人材の受入れに関する協力覚書に基づく協力を通じ、両国にとって有益な形でウズベキスタン国民が日本で労働に従事することへの期待を表明した。

- 11 双方は、両国間の地方間交流が活性化していることを指摘しつつ、特に、今次公式訪問に際し、名古屋市とタシケント市との間のパートナー都市協定が署名されたこと及び2019年8月に奈良県奈良市とサマルカンド市との教育・文化・観光の分野における相互交流の覚書が署名されたことを歓迎した。

双方はまた、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会におけるウズベキスタンのホストタウンである京都府舞鶴市、愛知県名古屋市及び群馬県高崎市の取組を始め、両国の市民間の草の根交流の進展を評価した。双方は、この好機に、本分野における交流が深まり、「日本国スポーツ庁とウズベキスタン共和国体育・スポーツ省との協力覚書」の署名が行われたことを歓迎した。

双方は、両国の大学間の交流の進展を高く評価しつつ、2019年7月にタシケント市で開催された第3回日本・ウズベキスタン学長会議及びタシケント国立工科大学付属ウズベキスタン・日本青年技術革新センターが、高等教育の発展及び人材育成の分野における協力の強化に資することへの期待を表明した。

- 12 双方は、科学技術及びイノベーション分野における協力の強化を指摘し、日本の科学技術振興機構とウズベキスタン共和国イノベーション発展省との間の協力覚書の署名を歓迎した。

## II 地域協力

- 13 ウズベキスタン側は、ウズベキスタンを含む中央アジアが世界に開かれ、安定した自立的な主体として着実な発展を実現するため、日本が触媒として地域協力を促進している「中央アジア＋日本」対話の役割を高く評価した。日本側はまた、友好、相互信頼及び善隣に基づく中央アジアの全ての隣国との相互協力の強化及び地域の繁栄と安全の達成に関するウズベキスタンの努力を高く評価した。

双方は、2019年5月に行われた「中央アジア＋日本」対話・第7回外相会合において、各国代表がこの対話を、農業、運輸物流及び観光の諸分野における実践的な協力を推進する場として積極的に活用していくとの方向性を確認したことの意義を指摘した。

双方は、東京で開催される予定の「中央アジア＋日本」対話・第8回外相会合に向けた準備において協力していくことで一致した。

14 日本側は、中央アジア諸国首脳協議会合の開催を含め、地域協力の発展のために中央アジア諸国共同の努力によって進んでいる活発で肯定的なプロセスに対する全面的な支持を表明した。日本側は、2019年11月29日のタシケントにおける第2回中央アジア諸国首脳協議会合の成功裡の実施を歓迎した。双方はまた、中央アジアにおける地域的及び国際的な協力を更に推進するために、「中央アジア+日本」対話の枠組みにおいても、緊密な協力を継続していくことで一致した。

15 双方は、あらゆる形態のテロを断固として非難し、地域の安定と安全、特に、テロ・暴力的過激主義、麻薬密輸、組織犯罪その他の地域にとっての脅威への対策に係る問題について、2020年4月に日本で開催される第14回国連犯罪防止刑事司法会議(京都 कांग्रेस)で議論されることを歓迎し、協議及び連絡を継続することの重要性を指摘した。

ウズベキスタン側は、日本が国際機関と連携して実施した、「省庁間の機動的なチーム設置を通じたウズベキスタンにおけるアフガニスタン産麻薬取引防止計画」及び「中央アジアにおける薬物・犯罪に対する国境連絡事務所設置及び越境協力強化計画」に係る無償資金協力の成果を高く評価した。

双方は、アフガニスタンにおける平和と安定の達成が地域及び国際社会にとって重要であることを再確認し、日本及び中央アジア諸国が効果的な国境管理を始めとする麻薬密輸及びテロ・暴力的過激主義対策の分野において協力を継続していることを歓迎した。

双方は、日本国政府及びウズベキスタン共和国政府によってとられているアフガニスタンの社会・経済発展のための努力を歓迎し、アフガニスタンの復興と和平プロセスの更なる支援における国際協力の重要性を指摘した。

16 日本側は、地域の持続可能な開発及び地域住民の健康と将来に脅威をもたらしているアラル海の問題に関するウズベキスタンを始めとする中央アジア諸国の努力を評価するとともに、この分野における地域協力の進展への期待を表明した。

ウズベキスタン側は、日本側が、国際機関と連携して、アラル海地域における地域社会の強靱化に資する無償資金協力(3.46億円)に係る交換公文に署名したことを高く評価し、当該協力の実施が、ウズベキスタン政府が国連の協力を得て設立した「アラル海地域マルチパートナー人間の安全保障信託基金」の目的に合致することを指摘した。

### Ⅲ 国際場裡における協力

17 双方は、地域及び世界における法の支配、平和、安定、協力及び繁栄を確保するため、国連憲章、国際法の基本原則及び国家の独立と主権の尊重に基づく自由で開かれた国際秩序の遵守の重要性を強調した。双方は、この目的の達成に資する貢献及び取組を歓迎した。

18 双方は、国連安保理をより実効的で、代表性が高く、21世紀の国際社会の現実を反映した組織にするための安保理改革の重要性を再確認した。双方はまた、テキスト・ベース交渉を早期に開始することの必要性を強調するとともに、常任・非常任議席双方の拡大を含む安保理改革の早期実現に向けた政府間交渉に係る作業に引き続き建設的に取り組む決意を表明した。

ウズベキスタン側は、日本の安全保障理事会常任理事国入りへの支持を改めて表明し、日本側は、その不変の支持に感謝の意を表明した。

19 双方は、2020年核兵器不拡散条約(NPT)運用検討会議の意義ある成果のため、核軍縮、核不拡散及び原子力の平和的利用といった分野における協力を強化していく意図を再確認した。

双方は、中央アジア諸国間の自発的な合意に基づく中央アジア非核兵器地帯条約が核不拡散体制の強化並びに地域的な及び国際的な平和と安全に向けた重要な一歩であることを指摘した。

20 双方は、関連する国連安保理決議の完全な履行及びこれらの決議の義務に従った北朝鮮による全ての大量破壊兵器及びあらゆる射程の弾道ミサイルの完全な、検証可能な、かつ、不可逆的な廃棄の実現に対するコミットメントを再確認した。双方は、北朝鮮に対し、この目標に向けて具体的な措置を講じることを求めた。

双方はまた、北朝鮮による拉致問題を含む国際社会が懸念する人道的問題の解決の重要性を強調した。

### Ⅳ 結び

21 ミルジヨーエフ・ウズベキスタン共和国大統領は、天皇皇后両陛下、日本政府及び日本国民に対し、大統領及びウズベキスタン側代表団に示された温かい歓迎と歓待に感謝の意を表明した。

ウズベキスタン側は、好適な時期に安倍晋三日本国総理大臣をウズベキスタン共和国訪問に招待した。日本側は招待に感謝を表明した。

本共同声明は2019年12月19日、東京にて、日本語及びウズベク語で各2通が作成された。

日本国内閣総理大臣

ウズベキスタン共和国大統領

安倍 晋三

シャフカット・ミルジヨーエフ